時事新報定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓○月曜休刊
○時事新報社より直接に郵送スルものハ右定價ノ外に一箇月十三錢の郵送料ヲ申受ク
時事新報社

時事新報廣告料(前金)

一行	一回	一日限	一日以上	七日以上
	付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付
東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて遠方より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を賑窶するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報酬すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

政府新聞の成行

兼てより政府の或る筋に縁故ありと聞えたる東京新報は去る十七日より不意に廢刊し尚は其他新報類似の新聞紙中にも或は日ならずして同様の運命を見るものもある可しと云へり近來までは自から盛大なりと吹聰したる新報が遽かの廢刊とは頗る奇なるが如くなれども竊に裡面の内情を聞くに右等の新聞紙は聲言の大なるに似ず實際發刊の紙數は甚だ多からず商賣營業としては迚も立ち行く筈のものに非されども其處が即ち御用新聞獨得の妙處にして所得外の所得頗る少なからず其筋にて此種の新聞保護の爲めに内々費す所の金額は毎月凡を幾千圓なりと云へば其出處に依頼して一時勢を張りたるものが今回官邊の更迭に由り或は内情の變化を生じたるが爲めに廢刊したるには非ざるかと一場の想像も亦自から空ならざるが如し又聞く所に據れば從來政府新聞の數は少なからざれども各々その所屬を異にして同じ政府の中にても甲大臣に縁故の厚きものもあれば乙大臣に隷屬するものもあり又は遙に黒幕老政治家の血統を引くものもあるなど兎角統一を欠て其所論一ならざるのみか時としては仲間の間に論端を開き喧しく爭ふなどの事もありて政府の政略上に不利少なからず斯くては金を費すのみにて效能薄ければとて從來のものを取極めて一に合し大に金力を注ぎて一大新聞を造り眞實政府の機關たる働を爲さしめんとの計畫もありと云へ是れ亦例の風説にして取留めたるみとはなけれども若しも實際に然らんには我輩は政府の爲めに今より其非計たるを斷言するものなり抑も新聞紙の計畫に付き第一の要件は實るゝや否やの一事にして發刊の上その賣行思はしからざるときは實際に何の功能もなかる可し如何となれば之を讀むものの少なければ其記事論説に感服するものも少なければなり從來政府に縁故ある新聞紙を見るに御用新聞と云へば兎角世間に嫌はれて讀者も少なき所より獨立不偏正議論なぞゝ自から吹聰するも尚は足らずして時としては態と政府に反對の論鋒を差向け妨げなき限りに攻撃を逞ふして頻りに其跡を掩はんとすれども事實は事實にして如何ともす可らず追ひ〳〵世間に喚付けられて其正體を現はすと同時に讀者も次第に減じて墓なき最後を遂げたるの例さへ少なからざれば折角一大新聞を打立たる處にて始めより實れぬとあれば詰り無益の計畫なる可し或は止むを得ざれば其擁護の力を以て厚顔にも同業者征伐の隠謀を抱くとあれば夫みを一大騒動にして世間の新聞紙は其主義持論の如何に拘はらず恰も連合一致して此普通の公敵に向ひわらゆる手段を盡しわらゆる筆鋒を極めて四方八方より一時に攻撃するみとならん正當防禦の止むを得ざるものなればなり其攻撃の論鋒が單に機關新聞紙の上にのみ止まらずして政府の政略上にも及び之が爲めに大に全國の人心を動して益々政府の不人望を重ねるに至る其間接の影響は姑く擱き差當り十重二十重の圍中に陥りながら其攻撃の働に當りて巧に之を切抜け反對者を壓倒して同業征伐の目的を達するの勇者ある可きや否やと云ふに今の保護に衣食する新聞記者中に斯る腕前のものある可しとは我輩の保證するみと能はざる所なり或は不思議にも膽力筆力共に絶倫の記者を得たりとして扨その上の成行は如何なる可きや一人の力を以て世間幾多の同業者を壓倒し天下に横行濶歩する程の人物ならんには決して今の政府に隷屬して永く鼻息を窺ふ可きに非ず最初の間みぞ其保護を辱ふして只管忠勤を勵むみとならんあれども一朝目的を達して羽翼既に成るときは亦籠中の物に非ず獨立を宣言するなり又は反對を試むるなり一身の勝手にして政府の自由にならざる其有様は猶は今の國民協會の性質を一變したるものと同様にして政府の爲めには恰も新聞と名づくる第二の變性國民協會を造るくるに異ならず得策と云ふ可きか其利害得失は一考して自から明了なる可し云ふ可きか其利害得失は一考して自から明了なる可し左れば政府新聞の計畫は敢て其事の不可なるに非ざれども記者その人を得ざれば勢して功なく幸にして其人を得れば後の患少なからず何れにしても政府の利に非ざるを如何せん畢竟機關新聞利用策の如きは今の政府の柄に合はぬ仕事なれば先づ思ひ止まりたる方、然るべしと我輩の敢て忠告する所なり

官報

○勅令

朕東京三十三國立銀行發行紙幣通用禁止ノ件ヲ裁可シ茲ニヲ公布セシム

御名御璽

明治二十五年七月十九日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二十三號
東京第三十三國立銀行發行紙幣自今通用ヲ禁止ス

○大藏省告示第三十五號

本年勅令第六十五號ヲ以テ通用ヲ禁止セラレタル東京第三十三國立銀行發行紙幣引換方ノ儀日本銀行ヘ令達シタルニ付右所持人ハ來ル明治二十八年七月十九日限リ同銀行ヘ申出引換ヲ請フベシ其期限經過ノ後ハ政府ハ引換ノ責ニ任セス

明治二十五年七月二十日

大藏大臣伯爵松方正義

雜報

○正誤　左の通り申來りたれば前報を是正す
貴社新報本月十五日雜報欄内に掲載相成候當山什實五百羅漢法却云々は事實相違の廉少からず依て其要點を擧げて正誤の請求に及候一他より四萬圓を借入返濟する能はず云々右は已に返金を了り毫も本件に關係なし次に米國商人十八萬圓にて買求め云々其間に在りて取次又は仲費を爲したる者云々十八萬圓以上の金は慥に賣主の手に云々右等は尤無根の妄説なるのみならず本件は未だ賣買のも秘談だもせざるを以て五百の實輪依然として庫中に秘在せり乞ふ此全文を記し世人をして誤認せしむるなかれ

明治二十五年七月十八日　京都紫野大德寺執事

東京時事新報社御中

○鐵道廳管轄換の沙汰に就て　鐵道廳を遞信省の所轄に移すべしとの沙汰は遂に其歩を進め閣議に於て決定し土木局をも併せて同省に移す事になれり抑事々しく噂さするものあるは畢竟彼の河野敏鎌氏が内務大臣兼司法大臣の椅子に就くに至りたる筆法より臆測して其餘勢の此邊にまで及び想像遂に事實と化したるものなちん目下内閣の有様迚も此邊の議定を爲す暇餘は無かるべしと云へり

○室蘭屯田兵の對抗運動　北海道室蘭郡輪西村なる屯田兵第一隊第五中隊は去る十二日甲乙兩軍に分れ室蘭市街を中央にして對抗運動を試みたる由なるが拂曉より所の挑戰に乙軍遂に敗れて室蘭市中は甲軍の占領する所となり休戰し更に前面の灣内に於て游泳競爭を爲し優勝者には何れも賞品を授與したりと云ふ

○シカゴ博覽會彙報

鐵道物品　合衆國のパルチモール　オハヨ鐵道會社は今度のシカゴ博覽會へ世界鐵道の開始より今日に至るまで其發達及び經歴を知るに足るべき出品を爲さんと目下盡力中にて英國へも委員を派遣しケンシントン博物館に陳列せる鐵道に關する見本等を取調べしむる筈なり

合衆國陸軍の出品　合衆國政府の出品に關する物品の内最も人の注意を惹くべきものゝ一は千七百七十六年以來今日に至るまで同國の陸軍に於て使用せし兵器、被服、テント及び旗類の出品是なり其場所として政府館の内を取除き置ける區域は六千平方呎なり目下既にグレースフーアリー武庫に於て其模造品製作中にて被服は總べて人形に打着せ恰も當時の武人が佇立せる如くにして殊に現時の將校七名の服は騎馬の肖像を製して之を着せ旗は少くも二十五旗を取集ひべく其代價のみにても八千弗の費用を要すと云ふ

船舶の出品　英國バーケンヘッドに於けるリヤードプロザース會社は先頃同國の海軍博覽會にも古來の船舶模形を出品して大に注意を惹くしが今度のシカゴ博覽會へは尚は一層其規模を大にして往古より今日に至るまでの造船業進歩の模様を顯はすべき出品を爲すと云ふ

專賣特許品の出品　合衆國專賣特許局は技術の進歩を示さん爲め諸種の專賣特許品を成るべく多く取集めて其見本を出品せんとせり左れども近來特許と願出ずるものは其見本を添へるを要せず又前年の分は火災に鑄失したる等にて同局に現在せざるもの多きに付き是等は各製造者へ其趣を通じ返却の約束にて一時借入れ之によりて出品を製する筈なり

大木の出品　カリフォルニヤ州よりの出品に大木あり其木の大さは長さ三百呎直徑三十呎にて特別汽車を仕立て會場へ運搬し同所に於て其根に大なる穴を穿ち之を小屋として同州出品者なり

寫眞の出品　英國の出品する見本として同品の出品委員を設けたり是等しめ其他は其内に加へ

○朝鮮京城通信

大院君邸の現狀　一昨日よれば彼の爆裂事件第二の大門に一二の穴りしに今日は第一第夫々來訪人の名刺を重に取調ふるのみなの路盤を增設したり大院君の談話に就ては何時も同一ならざりてありて其何れが眞なは頗る事を秘したる整々日に至り初めて是は專ら風聞せし處なく處によれば袁氏は早くも本邦へ電報し電到來し遂に韓廷を各國軍艦來集す　大共に容易ならざるのめ本邦軍艦八重山を艦は仁川に來泊し居も急着する露米軍艦しなり

張都準弘壹氏の長逝して夙に學識英才家大院君國王幷に王妃罹り其後肝臓病を患然長逝したりと

○東方世界　築地のージの毎週英字雜誌は東方世界（The Eastern World）と題し若干名に達すれば

○電氣學會の演説　時半より京橋區西紺を開き前田武四郎（避雷針の効用）二氏

○入谷の彝　本月十にては開園せしも未ならんか去る日曜各朝顔園の内入十、小供一錢の木戸錢をりしとぞ從前の如く木又入、百草園（九新ては本年仕立てたる中殊に珍しきは白に紅と濃紅の絞りにて是迄本桃色なし）等

○新刊書遇評　○代理論　は我民法として我商法の規定照引用し專ら法理論に其應用を示したる